

「教員になる」という想いを全力で支援します



# 未来への挑戦

令和4年度 第2号

宮崎国際大学 学生教職支援センター通信 2023年2月10日発行

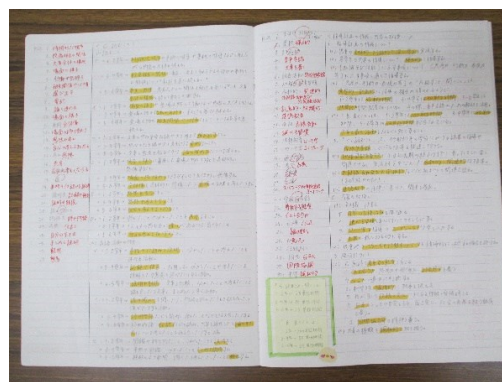
## 今号の特集記事 / 教員採用試験合格につながる学び

### 公立学校教員採用試験 教育学部23名、国際教養学部4名が合格！

本学HPや教育学部ニュースレター第26号でもお知らせしているとおりで、令和5年度公立学校教員採用試験（令和4年度実施）で現役学生の合格者は教育学部が23名、国際教養学部が4名という非常に高い合格率でした。この結果に学生の士気もますます高まっています。この成果につながる様々な取組みについては学生支援センター通信第1号（2022年9月15日発行）に掲載したところです。本通信では、『「教員になる」という想いを全力で支援する』ためのその後の取組みについてお知らせします。



教員採用試験合格者の4年生から  
教員採用試験の学習法を聴く1年生



試験対策学習のための自作ノート

## 先輩から学ぶ！

教員採用試験対策講座において「4年生の学習法に学ぶ」を実施しました。

この講座では、令和5年度（令和4年度実施）公立学校教員採用選考試験に合格した4年生が、自分なりの学習法を後輩に直接紹介しました。これは、小学校教諭を目指す教育学部の1～3年生と中・高等学校英語教諭を目指す国際教養学部教職課程の3年生とを対象としたもので、教員採用試験対策講座「応用Ⅰ」、「基礎Ⅰ」、「基礎Ⅱ」で実施されたものです。

すでに採用内定の通知を手にした4年生が「教員採用試験対策講座は非常に充実しているので、必ず受講するように」と異口同音に話す姿には、対策講座を運営している学生教職支援センターとして、ますます講座を充実させなければと改めて強い気持ちを抱きました。

「4年生の学習法に学ぶ」では、4年生が実際に使用した参考書や問題集、自分で作成したノートなどをもって熱く語っていました。中には文部科学省のYouTubeで学習を進めるなどの手法を用いる学生もおり、時代の流れを感じました。

後輩からは「先輩方の勉強量に圧倒された」という正直な感想をはじめ、「受験する県の教育基本方針などを調べてまとめておく」「過去問研究を行い、出題傾向を把握する」などのように具体的な学習方向を出した学生もいました。

半年後に迫った試験本番に向けて、3年生にはこれまで以上の奮闘を期待しています。

## 現場から学び、後輩へと繋ぐ



教育実習の様子



教育実習報告会の様子（3年生から後輩へ）

教員免許状の種類	実習の種類	対象	期間
小学校教諭一種免許状	教育実習Ⅰ（小学校）	教育学部3年生	令和4年10月末～11月 20日間
幼稚園教諭一種免許状	教育実習ⅠⅡ（幼稚園）	教育学部3年生	令和4年10月末～11月 20日間
幼稚園教諭二種免許状	教育実習Ⅰ（幼稚園）	教育学部3年生	令和5年2月 10日間
高等学校教諭一種免許状（英語） 中学校教諭一種免許状（英語）	教育実習（中学校）	国際教養学部 教職課程4年生	令和4年5月～6月 15日間

教員採用試験対策講座「基礎Ⅰ」	教育学部小学校教諭免許状取得希望1年生対象
教員採用試験対策講座「基礎Ⅱ」	教育学部小学校教諭免許状取得希望2年生対象
教員採用試験対策講座「応用Ⅰ」	教育学部小学校教諭免許状取得希望・国際教養学部教職課程3年生対象
教員採用試験対策講座「応用Ⅱ」	教育学部小学校教諭免許状取得希望・国際教養学部教職課程4年生対象

教育実習は、大学で学習した理論と教育現場での実践を統合する総合的な体験活動です。学生は授業を中心とする教育活動を行うことはもとより、教育現場の運営や教員職務の実態にも触れることで、実践的な指導力を身に付けることができます。

教育学部における小幼コースの教育実習Ⅰ（小学校）は、3年生時に20日間、小幼コース及び幼保コースの教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）は、3年時に10日間の実習、幼保コースはさらに教育実習Ⅱ（幼稚園）で10日間の実習を行いました。また、国際教養学部教職課程の教育実習（中学校）は、4年生時に3週間の実習を行いました。実習中には研究授業を行い、その様子を指導担当教員や学校長、同学年の先生など複数の先生方に観察していただきます。そして具体的な指導・助言を受けることによって学習指導の反省と改善につなげていきました。その際、本学教員も訪問したのですが、「授業に創意工夫があり、懸命に頑張っている様子が見受けられました」との報告がありました。

実習後の教育実習報告会では、教育学部3年生が1・2年生に、また、国際教養学部4年生が3年生に対して、実習の成果や課題を発表しました。実習生は、教員という職業が授業実践はもちろんのこと学級経営

### 実習生の報告内容の一部

- 大変なことが多くあったが、その大変さよりも子どもたちの楽しそうな姿や笑顔を見て、教員という道を目指してよかったと思った。
- 学習訓練と学級経営の関連性、机間指導と意図的指名の重要性について学ぶことができた。
- 授業づくりの大切さを実感した。特に、つまずいている子どもはどこでつまずきやすいのか、どう説明をすれば理解できるのかなどを知り、授業づくりをする中で支援を考える際のヒントになった。
- 一番苦労したのは子どもとの関わり方で、どのような声掛けをすべきなのかと迷うことが多かったが、目線や態度などにも気を付けて指導を行うようにした。



や保護者対応など、大変な仕事だということを改めて実感したようです。一方で、子どもたちとの関わりの中で教員にしか味わうことのできない楽しさややりがいを感じているようでした。

実習報告者である先輩は、発表に対する質疑応答や意見の交換等をしたり他の学生の実践を聴いたりすることを通して、自己の教育実習を客観的に振り返ることができました。そして、教員採用試験への意欲をいっそう高めていました。また、後輩は先輩の発表を聞いて、教員という仕事への関心や今後の学習及び教育実習への意欲がわき上がっているようでした。

## 児童福祉施設や社会福祉施設、特別支援学校で学ぶ!



福祉施設で通所者と一緒に活動している様子



特別支援学校での様子

免許・資格の種類	実習の種類	対象	期間
小学校教諭一種免許状	介護等体験	教育学部3年生	令和4年6月～令和5年1月 7日間
高等学校教諭一種免許状（英語） 中学校教諭一種免許状（英語）	介護等体験	国際教養学部 教職課程4年生	令和4年6月～令和5年1月 7日間
保育士	保育実習Ⅰb	教育学部3年生	令和4年8月～9月 10日間

教員になるには、教員免許の取得が必要です。そのためには、教育実習に加えて介護等体験が必要となります。この体験が教員免許の取得に必須とされているのは、教員が将来出会うことになる多様な個性について理解を深めるためです。そこで、児童福祉施設や社会福祉施設、特別支援学校において援助を必要とする子どもたちや利用者に対する業務に必要な資質や能力を体験的に理解・修得するとともに、広い視野を養うことを目的として教育実習Ⅰbや介護等体験を行います。「いじめ」など様々な問題を抱える教育現場にこれから臨んでいく本学学生は、心身に不自由のある人々との「触れ合い」を教育の場に生かしていくことになります。

介護等体験は、7日間の実習期間のうち、5日間は社会福祉施設、2日間は特別支援学校で実施、教育実習Ⅰb（施設）は児童福祉施設で10日間実施しました。この体験を通して、一人一人の人間のかげがえのなさや、人と人との支え合いの大切さについて深く理解することや自分及び他人の幸せを願う心を育むこと、幸せを実現するための種々の制度や取組み（行政、福祉施設、教育機関、医療機関、NPO等の民間団体等）の大切さを認識しました。

体験後の学生からは、「さまざまな人の生き方や生活のありように気付くとともに、人との関わり方や援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に学習しました」「介護等体験を経験したことにより、現場で出会うかもしれない学習や生活に困り感をもつ子どもたちとも、正面から向き合うことの大切さを学びました」という言葉が聞かれました。人格の完成を担う教育者として求められる幅広い社会観や人生観について視野が広がり、人間的に成長できるきっかけとなったようでした。



宮崎国際大学  
マスコットキャラクター  
ミック

## 宮崎県教育委員会主催「ひなた教師塾」で学びを広げる

本年度も宮崎県教育研修センター主催の「ひなた教師塾」の第3期生として3年生・4年生が参加しています。令和4年度最初の「ひなた教師塾」開講行事では、本年3月に教育学部を卒業した森川友梨奈さんが代表で「ひなた教師塾」での学びを発表しました。現在市内の小学校に勤めていますが、素晴らしい生き生きとした発表でした。教職に就いてまだ4か月を過ぎたところですが、自信をもって児童を指導している姿が頼もしかったです。

この「ひなた教師塾」では教科指導のポイントや模擬授業・学級経営の在り方などを学びます。国際教養学部・教育学部の3年生は教育実習までの資質・能力の向上を目指して学び、4年生は卒業後の教師生活の充実を目指して取り組んでいます。コロナ禍でオンラインの授業もありますが、どの学生も真剣に学び、学びの糧をレポートにして振り返っています。特に、宮崎県教育研修センターで学び合った後の学生たちの表情は充実感に溢れています。



## 令和3年度学部長賞授与式が令和4年12月14日に執り行われました

宮崎国際大学の学則に、「本学は、教育基本法及び学校教育法の定めるところに従い、建学の精神「礼節・勤労」に基づき人格の陶冶に務め、国際的視野に立った教養と専門的知識・技術を修得し、文化の発展と人類の福祉に寄与する人材を育成することを目的とする」とあります。そのため、学生は懸命に学びを深め、その結果は成績評価として示されます。

成績評価は、学則第22条に規定する評価・評定平均値を用いて判定され、1人の学生が修得してきた授業科目の成績評定（評価）ごとに、右の表のようにGP（Grade Point）を与え、それを平均したものをGPA（Grade Point Average）といいます。すなわちGPAは「秀（A）」「優（B）」「良（C）」「可（D）」をとった修得単位数にそれぞれ「4」から「1」までをかけたものの総点数を履修登録単位数で割ったものとなります。

成績評価	評点	GP
秀（A）	90点～100点	4
優（B）	80点～89点	3
良（C）	70点～79点	2
可（D）	60点～69点	1
不可（E）	59点以下	0

昨年度このGPAが前後期いずれかで3.8以上となった成績優秀者6名（4年生4名、3年生1名、2年生1名）が福田亘博教育学部長から学部長賞を授与されました。受賞者は賞状と記念品を手にして満面の笑みを浮かべていました。今後とも引き続き教育者としての資質・能力を磨くため研鑽に励むことでしょう。そして他の学生の奮起にも期待したいものです。なお、4年生の4名全員が教職員採用試験に合格しており、4月から小学校教諭として勤務することになります。



学部長と受賞した2年生



学部長と受賞した4年生と3年生